

ニーチェ

2019 年本試

問 5 次の文章は、九鬼周造が、ニーチェの運命愛の思想について論じたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

33

あることもないこともできるようなもの、それがめったにないものならばなお目立ってくるわけでありますが、そういうものがヒョッコリ現実面へ廻り合わせると、それが偶然なのであります。……偶然な事柄であってそれが人間の生存にとって非常に大きい意味をもっている場合に運命というのであります。……「意志が引き返して意志する」ということが自らを救う道である……このツァラトゥストラの教は偶然なり運命なりにいわば活を入れる秘訣であります。人間は自己の運命を愛して運命と一体にならなければいけない。……他のことでもあり得たと考えられるのに、このことがちょうど自分の運命になっているのであります。人間としてその時になし得ることは、意志が引き返してそれを意志して、自分がそれを自由に選んだのと同じわけ合い*にすることです。

(「偶然と運命」より)

*わけ合い：物事の筋道，意味，理由。

- ① 運命とは、起こることも起こらないこともあり得たような、取るに足りない偶然の出来事のことである。人は、そのような偶然を自分が選んだのだと考えることではじめて、その運命に重大な意味を与えることができる。
- ② 運命とは、人生にとって重大な意味をもった偶然の出来事のことである。そのような出来事は起こることも起こらないこともあり得たのだと考えることによって、人は、その運命を愛し、自らを救うことができる。
- ③ 偶然とは、めったに起こらないことが起こったものであり、それが人生に

とって重大な意味をもつと、運命と呼ばれる。人は、たとえ自分が選んだものとして愛せなくても、その運命に耐えねばならない。

- ④ 偶然とは、起こることも起こらないこともあり得た出来事のことであり、それが人生にとって重大な意味をもつと、運命と呼ばれる。人は自らを救うために、偶然を自ら選んだこととして捉え、運命と一体化せねばならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問5	33	④	3

2016 年本試

問 6 次の文章は、超人をめぐるニーチェの思想についての説明である。
～ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちか
ら一つ選べ。

私たちの生きる世界を、あらゆることが目的もなく無限に繰り返される の世界と捉えるのは、ともすれば恐ろしいことであるとニーチェは言う。だが、そのことから目をそらさず、自らの人生を「ならば、もう一度」と肯定的に引き受ける を有するのが、ニーチェの考える超人である。生を肯定し、西洋の伝統的な道徳に囚われず を体現する超人は、自らの手で新しい価値を創造するのである。

- ① a 輪廻転生 b 運命愛 c 力への意志
- ② a 輪廻転生 b 運命愛 c 性の衝動
- ③ a 輪廻転生 b 自己愛 c 力への意志
- ④ a 輪廻転生 b 自己愛 c 性の衝動
- ⑤ a 永劫回帰 b 運命愛 c 力への意志
- ⑥ a 永劫回帰 b 運命愛 c 性の衝動
- ⑦ a 永劫回帰 b 自己愛 c 力への意志
- ⑧ a 永劫回帰 b 自己愛 c 性の衝動

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	34	⑤	3

2015 年追試

問 8 次の文章は、19 世紀の思想が 20 世紀に与えた影響の一例について述べたものである。□ a □～□ c □に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 □ 36 □

20 世紀の思想に大きな影響を与えた 19 世紀の思想家の一人として、ニーチェが挙げられる。彼は、キリスト教の倫理観と結び付いた西洋の理想主義を、□ a □であるとし、批判した。彼によれば、理想主義を支えている善悪の区別は、自分よりも優れたものを憎悪する□ b □に基づいているのである。こうして、彼は、尊いものと考えられてきた人間性は、むしろ克服されるべき何かである、と考えるに至った。西洋の道徳的価値観や人間観をめぐって批判的な考察を行ったニーチェから影響を受けたのが、□ c □である。彼は、知や社会の構造に着目することで、人間の主体的な自由を賛美するヒューマニズムを批判し、さらに、従来の権力概念に変更を迫ることで、生のあり方を問い直した。

- ① a 存在忘却 b ルサンチマン c サルトル
- ② a 存在忘却 b ルサンチマン c フーコー
- ③ a 存在忘却 b ニヒリズム c サルトル
- ④ a 存在忘却 b ニヒリズム c フーコー
- ⑤ a 奴隷道徳 b ルサンチマン c サルトル
- ⑥ a 奴隷道徳 b ルサンチマン c フーコー
- ⑦ a 奴隷道徳 b ニヒリズム c サルトル
- ⑧ a 奴隷道徳 b ニヒリズム c フーコー

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 8	36	⑥	3

問6 次の文章はニーチェがラクダ、獅子(ライオン)、子どもの譬(たと)え話で精神の三様態を述べたものである。彼の思想を踏まえ、この文章の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

何が重いか？ 重荷に耐える精神はそう尋ねて、ラクダのように、ひざまずき、そして、たっぷりと荷を負わされることを欲する。……

だが、この最も寂寥(せきりょう)たる砂漠において、第二の変化が起こる。ここで精神は獅子になるのだ。彼はみずからの自由をかちとろうとし、自分自身の砂漠において主であろうとするのだ。……

だが、言え、わたしの兄弟たちよ。獅子もなし得なかった何ごとを、子どもはさらになし得るのか？ なぜ、強奪する獅子は、さらにまた子どもにならなくてはならぬのか？

子どもは無邪気そのものであり、忘却である。一つの新しい始まり、一つの遊戯、一つの自力でころがる車輪、一つの第一運動、一つの神聖な肯定である。

(『ツァラトゥストラはこう語った』より)

- ① ラクダは伝統的な制度や義務に規律正しく従うこと、獅子はそれを批判して自由を求めること、子どもは社会形成以前の無垢(むく)な状態に立ち返ることを表し、理想的な社会規範を一から構想する精神のあり方を表現している。
- ② ラクダは伝統的な価値や義務に禁欲的に従うこと、獅子はそれを否定して自立を求めること、子どもは世界を無心に肯定して創造的に生きることを表し、人間精神のあるべき変化のプロセスを表現している。
- ③ ラクダは伝統的な道徳や規範に従順に従うこと、獅子はそれを拒否して欲望の解放を求めること、子どもは無垢な状態に立ち戻って自らの厳格な道徳を確立することを表し、主体的で禁欲的な精神の重要性を表現している。
- ④ ラクダは伝統的な知の権威に忠実に従うこと、獅子はそれを疑って自由な思考を求めること、子どもは経験的事実を無心に観察することを表し、科学

精神のあるべき変化を表現している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問6	34	②	3

2011 年追試

問 6 20 世紀への転換期には，近代を導いてきた啓蒙思想や，歴史を進歩として捉える態度の行き詰まりが様々に意識された。その実例として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

28

- ① ニーチェは，現実の世界を等しきものが永遠に繰り返される神のいない無意味な世界と捉え，これを肯定する運命愛を自らのものとすることを説いた。
- ② シオニズム運動のマニフェストが刊行され，ユダヤ人による独立国家をヨーロッパに建設して社会的差別を抜本的に解決することの意義が説かれた。
- ③ フロイトは，人間の心の深層に無意識の領域を認めただうえで，個人的無意識よりもいっそう深い人類共通の集合的無意識の働きに注目した。
- ④ タヒチで創作活動を行ったゴーギャンは，「我々はどこから来たのか，我々は何者なのか，我々はどこへ行くのか」と，目的の王国の出現を夢見た。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	28	①	3

2010 年追試

問 2 ニーチェは、「理性」と「身体」との関係を、次の文章のように捉えている。これを読んで、彼の主張の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

24

身体は一つの大きいなる理性である。……私の兄弟よ、君が「精神」と呼ぶところの君の小さな理性もまた、君の身体の道具である。……「自我」と君は言い、そしてこの言葉を誇りとしている。だが、より大きいなるものは……君の身体であり、君の身体の大きいなる理性である。この大きいなる理性は、自我を言わないで、自我を行う。……感覚と精神とは道具ないしは ^がんぐ 玩具 である。それらの背後には、さらに自己が横たわっている。……自己は感覚の目で探り、精神の耳で聴く。……そしてまた自我の支配者でもある。

(ニーチェ『ツァラトゥストラはこう語った』)

- ① 根源的な自己としての身体が、自我を主張する精神としての理性を支配している。
- ② 小さな理性としての精神と大きいなる理性としての身体は、本来は同一のものである。
- ③ 理性と身体とは、自我の背後にある根源的な自己が操る精神と感覚とに対応している。
- ④ 理性と身体は、どちらが根源的な自己として表層的な自我を支配できるかを争っている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	24	①	3

2006 年本試

問 5 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

ニーチェ自身は、 超人の立場を説いた。

- ① 意味や目的のない世界をあえて引き受け力強く生きる
- ② 意味や目的のない世界を離れて芸術的創造に癒^{いや}しを求める
- ③ 意味や目的のない世界を破壊して理想的社会を建設する
- ④ 意味や目的のない世界を傍観してつねに超然と生きる

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	26	①	2

2004 年追試

問 1 文章中の ・ に入れる人物として正しいものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- ① ヤスパーズ ② ニーチェ ③ カミュ
④ キルケゴール ⑤ マルセル ⑥ サルトル

問 2 文章中の ・ に入れる語句として正しいものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- ① 包括者 ② 絶対者 ③ 単独者
④ 異邦人 ⑤ 聖人 ⑥ 超人

19 世紀のヨーロッパにおいて、実存主義の先駆者とされる や らは、人々が大衆化して、不安や孤独感から逃れようとしつつあった当時の時代状況を批判していた。 は、当時の世俗的な風潮、世俗化した宗教と戦いながら、神の前に として立つことを求めた。また は、「神は死んだ」という宣言をもって、伝統的な宗教に集う人々の在り方を批判し、 となって新たな価値を創造することを求めた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	28	④	2
第 4 問	問 1	29	②	2
第 4 問	問 2	30	③	2
第 4 問	問 2	31	⑥	2

2002 年本試

問 5 モンテーニュの『エッセー』に親しんだ思想家にニーチェがいる。ニーチェの思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

18

- ① 人間は、まず生存するために、ついで生きるために、いわば二度誕生し、心身ともに独立した自己へと成長しなければならない。
- ② 人間は、意味もなく永遠に反復される人生を積極的に肯定することによって、現在を真に生きることができる。
- ③ 人間は、知性の能力を駆使して現実の状況における問題を解決することで、状況に対応した自由を実現していくことができる。
- ④ 人間は、無目的な意志を本質とする世界のなかで、満たされぬ欲望に苦悩しつつ、生きなければならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	18	②	3

2000 年追試

問 2 西洋思想史ではこれまで、利己心や自己中心性をどう扱い、どう位置づけるかということが、思想の特徴を決める大きな要因であることが多かった。次のそれぞれの思想を唱えた人物として最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つずつ選べ。アについては [16] に、イについては [17] に、ウについては [18] に答えよ。

ア 各人が利己心に促されて、自分の利益だけを追求するような仕方で経済的自由競争を行えば、互いの^{あつれき}軋轢や反目が生まれて経済活動が停滞することではなく、むしろ「見えざる手」に導かれ、社会全体の富は増大する。

イ 自然状態では人間は、自他を比べてその優劣を問題にする、などということとはなかったが、しかし、財産の私有が始まって貧富の差が生まれ、社会に不平等がはびこると、他人に優越したいという気持ちが顕著になった。

ウ 利他心の^{かんよう}涵養を命じるキリスト教道徳とは、その実、強者に対する弱者のルサンチマン(^{えんこん}怨恨)から生じた「奴隷道徳」であるが、それに対して、自分自身のあり方を積極的に肯定する道徳が「貴族道徳」である。

- ① ニーチェ ② ロック ③ アダム・スミス
- ④ ケインズ ⑤ サルトル ⑥ ルソー
- ⑦ マキアヴェリ ⑧ ヒューム

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	16	③	2
第 3 問	問 2	17	⑥	2
第 3 問	問 2	18	①	2